

八幡平市



古里・八幡平市に思いをはせながら、参加者全員で「ふるさと」を大合唱

ふるさと会総会で古里への思いを語り合う

首都圏などに住む八幡平市出身者で構成する「八幡平ふるさと会」は6月1日、第2回総会を東京の虎ノ門パストラルホテルで行いました。

総会には、工藤修会長のほか会員221人が出席。市から田村正彦市長、瀬川健則市議会議長などがお祝いに駆け付けました。特別ゲストとしてアルペールビル冬季オリン



岩手山神社山伏神楽が披露されました

ピック金メダリストの三ヶ田礼一さん、元小結・栃乃花の大相撲春日野部屋二十山親方が招待され、総会に花を添えました。

総会に引き続き行われた交流会では、アトラクションとして市指定無形民俗文化財の岩手山神社山伏神楽を披露。出席者は、久しぶりに見る郷土の伝統的な舞に心を躍らせ、思い出話に花を咲かせていました。

会場では、市の特産品が当たる抽選会を開催。市の物産を販売するコーナーも設けられ、参加者は物産の説明を聞きながら方言を懐かしみ、ふるさとへ思いをはせました。

田頭小学校の5・6年生は5月30日、同校の学校田で田植え体験を行いました。

総合的な学習の時間の一環として毎年5・6年生が田植えから収穫、販売までを体験。今年は49人の児童が、7㍓の水田に「いわてっこ」の苗を植えました。

児童たちは、泥に足を取られ転びそうになりながらも、収穫への期待を胸に、楽しんで田植えに汗を流していました。



笑顔で苗を植えていく児童たち

田頭小の児童が泥んこだらけで田植え体験



山開きを祝い、山頂で万歳三唱する登山者たち

新日本百名山の一つに数えられる七時雨山(1063.3m)の山開き行事は6月1日、七時雨登山口で行われました。あいにくの雨にもかかわらず、登山者や観光関係者など約50人が神事、出発式に参加。今シーズンの登山者の安全と観光名所としての七時雨山の発展を願いました。

出発式に続いて、登山者たちは市旗を先頭に、南峰頂上を目指し、山頂では万歳三唱し、山開きを祝いました。

七時雨山山開きで今シーズンの安全を願う